

背景・目的

根釧東部森林管理署管内は、漁業と酪農業（第一次産業別就業人口構成比99.8%）を中心とする地域で、北海道遺産に選定された根釧台地の格子状防風林に代表される保安林は、これら基幹産業を支える重要な森林として、公益的機能への関心は非常に大きい。しかし、他の産業から比して林業（第一次産業別就業人口構成比0.2%）へふれる機会は少なく、必ずしも関心が高い地域とは言えない。

このような背景の中、根室振興局が主催で開催された「根室地区林政連絡会議」において、同森林室より、市町では林業に関する技術を持たずに林務担当職員となる者が近年多く、現在国有林で進めている大型機械を使用した低コスト作業等の技術を身につける機会を作ってほしいとの要望があったところ。

要望に応じ、市町の林務担当職員、林業事業体を中心に当署管内で行っている一貫作業システム等を紹介して民有林における伐採・造林への低コスト作業等の普及・定着に取り組む。

内容・成果

今年度は、現地検討会を開催し、低コスト施業の技術に関する理解を深め、実施に当たっての課題などについて意見交換を実施しました。

紹介した技術は

① 一貫作業システム

伐採から植栽までの一貫した作業による効率的な事業の実施

② 大型機械地拵

下刈回数の省略を考慮した大型機械による根茎を除去する地拵の実施

③ コンテナ苗の活用

クリーンラーチとカラマツの成長比較

意見交換では、「生分解性のコンテナや笹の根茎除去の違いによる苗木の成長比較」、「下層植生の回復状況によって下刈の省略がどの程度可能なか」など、今後の情報提供や実施に向けた課題が共有され、これらの技術への理解を深めることが出来ました。



今後の展開

【一貫作業システム実施後のモニタリングと技術の普及】

- ① 大型機械による地拵において、笹の根茎除去による苗木の成長比較と下層植生の回復状況に応じた保育コスト（主に下刈）の比較・検証。
- ② コンテナ苗における樹種（クリーンラーチ・カラマツ）の違いによる苗木の成長比較。
- ③ 生分解性のコンテナを使用した苗木と通常のコンテナ苗の成長比較。

これらの結果を踏まえ、地域の民有林関係者とともに地域に適した低コスト施業の手法の検討を進める。



最終目標

地域に適した低コスト施業等の普及定着。